

 コミュニティ・バンク京信

主催：コミュニティ・バンク京信

「コミュニティ・バンク京信」は、京都信用金庫のブランドネームです。

第33回 京信 ニューイヤーコンサート

2026年の幕開けは、
とびきりフレッシュな顔ぶれで
動物をテーマにした名曲集!



2026.1.12(月・祝) 2:00PM 開演(1:15PM 開場)

京都コンサートホール[大ホール]

ごあいさつ

コミュニティ・バソク京信
理事長 榊田 隆之



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は、コミュニティ・バソク京信に格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

今回で33回目を迎える「京信ニューイヤークンサート」を今年も多くの皆様とともに開催できますことを大変うれしく思います。

本日は日本で活躍の場を広げているお二人をお迎えし、動物にまつわる名曲の数々をお届けいたします。

新年の幕開けを華やかな楽曲と共に、どうぞごゆっくりお楽しみください。

今年もどうぞよろしく願いたします。

プログラム Program

指揮 ● ロマン・レシエキン

Conductor: Roman Reshetkin

ヴァイオリン ● ルエン・リー ★

Violin: Lun Li ★

管弦楽 ● 京都市交響楽団

City of Kyoto Symphony Orchestra

曲 目 ●

ヴォーン・ウイリアムズ:「すずめばち」序曲

ヴォーン・ウイリアムズ:「揚げひばり」

ーヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス ★

..... (休憩 20分)

チャイコフスキー:「白鳥の湖」op.20 (セレクシヨン)

序奏 / 第1曲:情景 / 第2曲:ワルツ / 第10曲:情景 / 第8曲:乾杯の踊り /

第13曲 IV:小さい白鳥の踊り V:オデットと王子のバ・ダクシオン /

第20曲:ハンガリーの踊り。チャールダーシュ / 第21曲:スベインの踊り /

第22曲:ナボリの踊り / 第23曲:マズルカ / 第28曲:情景 /

第29曲:情景・終曲

ルエン・リーの使用楽器:

日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス1735年製「サラスイユ」

協力: 日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

特別協力: Supported by 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

※都合により、曲目・曲順・出演者等、内容が一部変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◆ヴォーン・ウリアムズ：「すずめばち」序曲

20世紀前半の英国を代表する作曲家レイトン・ヴォーン・ウリアムズ(1872～1958)は、ロンドン王立音楽大学とケンブリッジ大学を卒業後、ベルリンでアルツ、パリでラヴェルに師事した。作曲家としては遅咲きだったが、モダンな作風でありながらも民謡や教会音楽等の研究を通して独自の語法を確立し、9曲の交響曲やオペラをはじめ、あらゆるジャンル作品を手がけた。

1909年、ヴォーン・ウリアムズは、ケンブリッジ大学で上演された古代ギリシアの詩人アリストフネスの喜劇「蜂」のために劇付随音楽を書いた。さらにそこから序曲と劇中の4曲を選び、「アリストフネス」組曲が作られた。「すずめばち」序曲は、組曲の冒頭に置かれた曲で、蜂の羽音を思わせるような導入部が続く、快活な主部は5音階による軽快な主題を中心に展開される。

◆ヴォーン・ウリアムズ：「揚げひばり」ーヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス

(ヴァイオリン・ルエン・リー)

ヴォーン・ウリアムズの最もよく知られた作品のひとつ「揚げひばり」は、イギリスの作家ジョージ・メイスの同名の詩から着想を得て、1914年に作曲が開始された。しかし、ヴォーン・ウリアムズが第一次世界大戦に従軍したため中断され、1920年に再開。初演を務めたヴァイオリニスト、スリー・ホルの協力を得て完成した。空高く舞い上がるひばりの声を思わせる独奏ヴァイオリンによる民謡風の旋律が美しい。

ルエン・リー 使用楽器

ストラディヴァリウス1735年製ヴァイオリン「サマズイユ」

この楽器は、1836年に楽器商のルイ・ジョージ・オ(1796～1854)によってイタリアからフランスへ持ち込まれ、1909年にはサマズイユ家が所有していたことから「サマズイユ」と呼ばれている。1923年に楽器を所有することになったヴァイオリンの巨匠ミッソ・エルマン(1891～1967)は「ストラディヴァリウスの中で最高の音色を持つ楽器の1つ」と1926年に手紙に記している。楽器の内側のラベルには製作時の年齢である91歳と書かれている。



日本音楽財団

日本音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っている。保有する世界最高クラスの弦楽器21挺(ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、ヴァルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺)を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っている。また、楽器貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供している。日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されている。

◆チャイコフスキー：「バレエ音楽「白鳥の湖」op.20(セリシオン)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～93)の「バレエ音楽「白鳥の湖」」は、「眠りの森の美女」「くるみ割り人形」と続く、チャイコフスキーの三大バレエの1作目にあたり、1877年にモスクワのボリショイ劇場で初演された。当時はそれほど高い評価を得ることができず、その真価に目が向けられたのは、チャイコフスキー没後の1895年にプティパとイワノフの共同振付で蘇演されたことがきっかけで、以来、「白鳥の湖」は、バレエの代名詞として、世界中から愛される作品となった。

本日は、全4幕の「バレエ音楽から抜粋で演奏される。全曲版の順番を一部入れ替えているが、全幕から有名な楽曲を中心に選ばれ、チャイコフスキーの「バレエ音楽の醍醐味」が存分に味わえるかたちになっている。物語は、若き王子ジークフリートは、誕生日の祝宴で、王妃である母親から翌日の舞踏会で花嫁を選ぶように言われる。憂鬱な王子は、祝宴の後、友人と出かけた湖畔で、悪魔の呪いで白鳥に姿を変えられた美しい娘オデットと出会う。二人は惹かれ合うが、翌日の舞踏会でオデットそっくりに変身して現れた悪魔の娘オデールと愛の誓いを立ててしまう。過ちに気づいた王子は、オデットに許しを請い、悪魔の呪いに立ち向かう。

オボーエの寂しげな旋律が始まる序奏は、この物語が幸福に満ちたものではないことを暗示する。**第1曲「情景」**王子の誕生日の祝宴に宮廷の友人たちが集まる。**第2曲「ワルツ」**弦楽器のピチカートに導かれ、優美なワルツが繰り広げられる。**第10曲「情景」**王子は友人と湖に出かけ、白鳥の群れを追う。ハーブの分散和音とともにオボーエが哀しくも美しい旋律を歌い、王子とオデット姫の出逢いが描かれる。**第8曲「乾杯の踊り」**ポロネーズのリズムによる賑やかな音楽。

第2幕は、王子とオデットが愛を誓う場面。**第13曲**は7曲の「白鳥たちの踊り」から2曲演奏される。「小さい白鳥の踊り」4羽の白鳥が軽やかに踊り、「オデットと王子のバ・ダ・シオン」ハーブに導かれ、ヴァイオリン・ソロが愛の歌を歌い上げる。

第3幕は、王子が花嫁を選ぶ舞踏会。民族舞曲が次々と披露される。**第20曲「ハンガリーの踊り」**対比が鮮やかなチャールダッシュ。**第21曲「スベインの踊り」**ポレロの強烈なリズムが印象的。**第22曲「ナボリの踊り」**コレットの旋律が明るく輝き、**第23曲「マズルカ」**力強いリズムが舞踏会を盛り上げる。

最終幕で、オデットは王子がオデールに騙されたことを知る。**第28曲「情景」**悲しみに暮れるオデットの心情が描かれ、**第29曲「情景・終曲」**二人の愛が悪魔の妨害を克服したことが高らかに歌われる。

指揮 ● ロマン・レジェキン

Conductor: Roman Keshetkin

指揮者の父とバレリーナの母というロシア人の両親のもとに生まれ、現在パリ在住のフランス人指揮者。ヴァイオリンで音楽の道を歩み始めてエズロン・A.デュメイ、P.ヴェルニコフ、R.ドガレイユなど名教師のもとで学び、13歳の時にモスクワで開催された第8回若い音楽家のためのチャイコフスキ国際コンクール・ヴァイオリン部門第2位受賞。父の足跡をたどって10代前半から指揮を始め、パリ国立高等音楽院でA.アルティノグリュに師事して指揮の修士号を取得。これまでカンヌ国立管、リール国立管、ピカルディ管等のほか、ハンガリー、台湾、ポルトガルのオーケストラも指揮。2022年下野竜也が審査委員長を務めた第1回ひろしま国際指揮者コンクール第2位受賞。2026年は日本で京響と初共演し、広島響に再登場する。フランスとロシアの音楽への生来の愛着に加え、知られざる作曲家や作品の紹介にも尽力し、アメリカ、アルゼンチン、中国などクラシックと伝統的に関わりがない国やスペイン、イギリス、イタリアなど演奏機会が少ない国の音楽を定期的に取り上げている。また、現代作曲家、特にC.ペーペン、O.ゴリホフ、陳其鋼の音楽を精力的に広めている。



© Oscar Chevilland

ヴァイオリン ● ルエン・リー

Violin: Lun Li

中国上海出身のヴァイオリンリスト、ルエン・リーは、2021年、ヤング・コンサート・アーティスト・スーザン・ワズワース国際オーディションおよびリリアン&モーリス・バーバッシュユ.S.バッシュ・コンクールで第1位を獲得。2024-25年シーズン、ハイライイトには、東京交響楽団、バンゴア交響楽団、スプリングス室内管弦楽団との共演、リソカン・センター室内楽協会とのアジアツアー、YCCAとのアメリカツアーへの参加が含まれる。



© Kevin Condon

2025-26年シーズンは、大阪交響楽団および京都市交響楽団との共演、リソカン・センター室内楽協会のシーズン開幕公演への出演を控えている。これまでにカーネギー・ホール、92Y、ベルリン・コンツェルトハウス、ウイーン・コンツェルトハウスなど、主要な会場で演奏を行う。室内楽にも強い情熱を持つリーは、バード音楽祭、マールボロ音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ミュージック・アット・メンローに出演。カーネイス音楽院とジュリアード音楽院を卒業。現在はジュリアード音楽院でキャサリン・チョーのアシスタントを務めている。使用楽器は日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス1735年製ヴァイオリン「サズベユ」。

管弦楽 ● 京都市交響楽団

City of Kyoto Symphony Orchestra

1956年、京都市が「京都の新たな文化財」として構想し、創立。日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つ。(身近な存在として、市民に愛され誇りとされる)「文化芸術都市・京都の象徴」となる)オーケストラを目指している。京都コンサートホールでの定期演奏会をはじめ、小中学生を対象とした音楽鑑賞公演、0歳から楽しめる演奏会、アウトリーチ活動、若い人達への楽器講習会など、多彩な活動を行っている。2023年常任指揮者に沖澤のどか、2024年首席客演指揮者にヤン・ヴェレム・デ・フリースが就任。2026年は創立70周年を迎え、(世界に向けて最高の音楽を発言し続ける)オーケストラとしてさらなる発展を目指す。



©井上写真事務所 井上 潔和

スナーを守って、素晴らしいコンサートに!

※京響からお客様へお願いです

「アラーム付時計や携帯電話、スマートフォンをお持ちのお客様は、演奏中に鳴らないようご注意ください。」

あらかじめスナーモードにしてから、電源をお切りください。

随時計の秒針の音が大きい場合も、他のお客様のご迷惑となりますので、ご配慮ください。

演奏中の入退場や私語、会場内での録音、録画はお断りいたします!

会場内での写真撮影や録音は、アーティストの肖像権や音楽の版權などを侵害する可能性がありますので、固くお断りしております。

「ブラボー」や拍手は、指揮者のタクトが降りてからに!

早すぎる「ブラボー」や拍手は、演奏者や他のお客様のご迷惑となる場合がございます。演奏後の余韻も、コンサートの大切な一部としてぜひお楽しみください。

「ちよっとした物音も、音が響いて他のお客様のご迷惑となります!」

コンサートホール内では音が思ったよりもよく響きます。演奏中はピエール袋やプログラムをめくる音、鈴の付いたキーホルダーなど演奏を妨げる音をたてないよう、また、咳をされる際はハンカチでお口元を押さえるなど、十分ご配慮のうえ、ご鑑賞ください。

